

# 平成 30 年度 学校評価（自己評価）

## I. はじめに

本年から数年にわたり、安松幼稚園の運動・体育指導にテーマを絞り、学校評価（自己評価・学校関係者評価）を行う予定である。

初年度 令和元年度（2019年度）5月 平成30年度(2018年度)の学校評価  
テーマ 安松幼稚園の体育指導の 総論 並びに 基礎体力の育成 について

2年目 令和2年度（2020年度）5月 令和1年度(2019年度)の学校評価  
テーマ 短距離走 持久走 並びに 体幹トレーニング について

3年目 令和3年度（2021年度）5月 令和2年度(2020年度)の学校評価  
テーマ 縄跳び 並びに 跳び箱 について

4年目 令和4年度（2022年度）5月 令和3年度(2021年度)の学校評価  
テーマ ボール遊びや その他の運動 について

初年度となる本年は、安松幼稚園の体育指導の総論 並びに 運動の基本となる 基礎体力の育成 を中心に学校評価を進めていく。

幼児の健全なる発達を考えると、心と身体の発達は切り離されて存在するものではなく、適切な運動・体育指導は、子供の情緒・思いやり・積極性など、子供の心を豊かにするものであると確信する。

当園の運動・体育指導に関する 大きな考え 並びに 具体的な指導 にも踏み込み、それらを再度検証し、評価していきたいと考えている。

目標設定 (P) 実行 (D) 評価 (C) A(改善) の各要素について、学校評価を行った。

## II. 本年度の学校評価の項目として、運動・体育指導をテーマに選んだ理由……目標設定 (P)

従来、子供の遊びの中には、歩き・走り・跳ぶ という要素が含まれていた。

昨今、日本の子供達が体を動かして遊ぶ環境が社会から消え去り、子供たちの体力・運動能力・友人等と遊ぶ際の人付き合いの力が減じている。そういう社会変化の中で、学校教育とくに幼児が在籍する幼稚園が、その遊びの場を保証し、基礎体力・運動能力・人間力を育成する必要に迫られている。

そういう想いの中で、当園は、ここ 10 年を超える年月を通して、総合的な運動カリキュラムを開発してきた。それが、子供の発達段階にあっているか、また具体的な成果について、率直な自己評価を行うと共に、関係者の評価を受けたいと考えた次第である。

追伸：文部科学省による幼稚園教育要領にある五領域 並びに 次の

- ・環境を通して行う教育を基本とする
- ・遊びを通しての総合的な指導
- ・知識及び技能の基礎 思考力判断力表現力等の基礎 学びに向かう力人間性等 の三本柱などについては、一般論としては綺麗で見事なものではあるが、3~5 歳児の体力・運動能力の向上を考えると、これだけでは不十分さが残る。

子供たちの体力・運動能力の育成には、特に 4、5 歳児の発達段階を考慮すれば、もう少し踏み込んだ意図的な運動・体育指導が必要と考えている。

## III. 実行 (D)

### ●最近の子供の実態

- ・走る力が弱い
- ・腹筋 背筋が弱い
- ・バランス感覚に乏しい
- ・瞬発力がない
- ・敏捷性不足

その結果

- ・前転(前周り)の後さっと起き上がることが出来ずに、横に手を着いて、「よっこらしょ」と、起き上がる。
- ・運動場で転倒した時に、その瞬間に手をつくことが出来なくて、顔から落ちる。 等々

補：とくに3歳児においては、母親の甘やかしによる 移動は抱っこでという習慣から、歩く意欲のない園児もいて、まずは歩く練習、自分の足で歩くという気持ちを育てる必要がある。

## ●基本

まずは遊びの中で、身体を動かすことは楽しいという気持ちを育てたい。

※当園にある芝生の運動場では転んでも痛くないので、全学年とも体を動かすことの楽しみを感じることが可能である。

特に年少さんでは、先生とお友達と一緒にぐるぐる回るだけで、楽しく、知らない間に相当の距離を走ることになり、かなりの走力がつく。

年中・年長では、鬼ごっこや ハンカチをお尻に着けてそれを取りに行くなど、ゲーム性を取り入れて遊んでいる。距離も伸び走力が身につくと共に、敏捷性の涵養にもつながる。

芝生にはスプリンクラーがあるので、全学年とも、夏にはプールに入る前に、水着でスプリンクラーから水の出る中、芝生を走り回る。顔に水がかかっても平気になり、プール指導の一助にもなっている。

※当園では、休み時間に全ての子供たちが、友達どうしで、また先生と一緒に、身体を動かして遊ぶ。この遊びが楽しみで、色々な物事に対する子供の積極性を高め、やる気を引き出している。このやる気が、運動能力を高めていくことにつながる。心と身体がリンクしていると強く感じるところである。

まずは、運動は楽しいと感じる環境設定と指導が、最重要である。

## ●幼稚園の体育指導にとって必要な基礎知識

年長段階での体育指導になれば、その運動の目的を認識し、速筋（白筋）、遅筋（赤筋）についての基礎知識を持って、指導に当たらねばならない。

速筋（白筋）……瞬発性運動      遅筋（赤筋）……持久性運動

## ●意図的な取り組み

学年で次のような目標を立て実践している。

※基礎体力の育成を中心に

☆年少

- ・20mを、まっすぐ走る
- ・片足で何秒かずつ立つ
- ・その場で、片足ケンケンをする
- ・片足ケンケンで、5mぐらい進む

☆年中

- ・サーキットトレーニング
- ・25m ダッシュ
- ・体幹を鍛える
- ・跳び箱 台上前転
- ・縄跳び
- ・持久走（3学期）

☆年長

- ・サーキットトレーニング
- ・30m ダッシュ
- ・体幹を鍛える
- ・跳び箱 開脚跳び
- ・縄跳び
- ・持久走（通年）

※上記以外に扱っている運動

- ・マット運動
- ・鉄棒
- ・平均台
- ・芝生での色々な運動
- ・ボール運動 等々

## ●走ることが基本であるが、色々なタイプの運動をさせたい。

★特にサーキットトレーニングについて

- ・幼児期には、速筋（白筋）を育てる運動を、多くさせたく思っている。
- ・当園のサーキットトレーニングは、園児が楽しみながら取り組めるように、多くの種類の運動を取り入れて、1、2分全力で取り組んだ後は30秒ぐらいの待ち時間があり、それを

約 12 分から 15 分続けて行う。

年度当初の 4, 5 月に、年中・年長児を対象に、サーキットトレーニングを行うが、園児の基礎体力の積み上げに、多大な効果を感じているが、その効果については、C（評価）の項に記す。

具体的には、次のような運動を取り入れている。

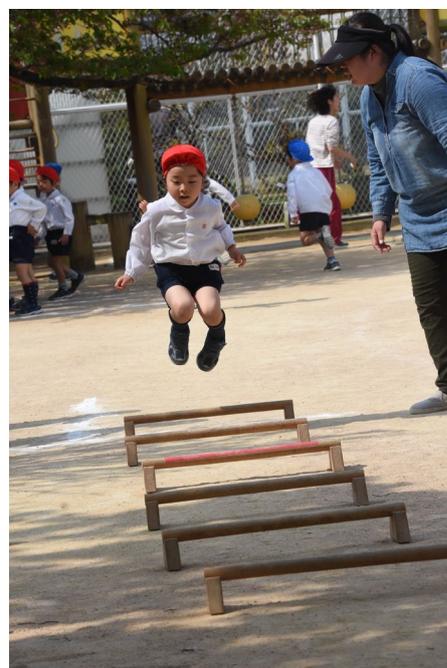
年長児のメニューは、

- ①鉄棒を使つての腹筋
- ②S 棒での両足ジャンプ
- ③マットでの前転（前まわり）
- ④左右それぞれ片足でのケンケン跳び
- ⑤ダッシュならびに走り幅跳び的なもの
- ⑥坂をダッシュで駆け上がる
- ⑦跳び箱
- ⑧これらの運動の場所へは、約 20m のダッシュで移動する。

が、標準的なものであるが、この 2 ヶ月のサーキットトレーニングで、目に見えて、体力が向上していくのがわかる。



② S 棒での両足ジャンプ      ↑      →



④ 左右それぞれ片足でのケンケン跳び      ↓



⑤ ダッシュならびに走り幅跳び的なもの      ↓



#### ★体幹トレーニングについて

とても楽しみながらしています。

詳しくは、来年度の学校評価で取り扱います。

#### IV. 評価 (C)

- まずは、子供が体を動かすことが好きになったか、運動を楽しみながらしているか、積極性ややる気が育ったかについて

3歳児入園当時から、芝生で キャッキャ 言いながら、動き回った経験をはじめとし、休み時間にお友達や先生と体を動かして遊ぶ経験が、運動を好きになるきっかけとなり、**運動能力**だけでなく、**精神的な強さや積極性も併せて育った**と、全ての先生で、評価している。

- 50m 走の記録からの 具体的な検証

それを裏付けるデータは数多くあるが、今回は、年長さんの 50m 走の記録を評価の対象として取り上げる。当園では、年長さんに対して、5月と翌2月に、50m 走の記録会を行っている。

#### ★安松幼稚園の年長児全員の 50m 走のタイムの推移

	5月の平均	翌2月の平均	1位のタイム	8、9秒台の人数	10か月で早くなった最高タイム
21年度	12.30 秒	→ 11.25 秒	9 秒 56	7 名	
22年度	12.60 秒	→ 11.66 秒	8 秒 63	7 名	
23年度	11.78 秒	→ 11.13 秒	9 秒 07	11 名	
24年度	12.27 秒	→ 11.56 秒	9 秒 32	5 名	3.47 秒 : 15.06 秒→11.59 秒
25年度	12.16 秒	→ 11.42 秒	9 秒 38	9 名	2.86 秒 : 14.09 秒→11.23 秒
26年度	12.22 秒	→ 11.23 秒	9 秒 08	11 名	6.85 秒 : 19.16 秒→12.31 秒
27年度	11.94 秒	→ 10.91 秒	8 秒 90	15 名	2.69 秒 : 15.23 秒→12.54 秒
28年度	11.58 秒	→ 10.99 秒	9 秒 11	16 名	3.82 秒 : 17.78 秒→13.96 秒
29年度	11.93 秒	→ 10.86 秒	8 秒 94	20 名	2.66 秒 : 15.01 秒→12.35 秒
30年度	11.59 秒	→ 10.51 秒	8 秒 52	31 名	5.23 秒 : 17.24 秒→12.01 秒

#### ※表の見方

各学年の人数は、90名から100名ぐらいで、学年によって大きな差はありません。

30年度を例にとりますと、園児数は95名でした。

30年5月の95名の平均タイムは 11.59 秒 であり、翌31年2月の平均タイムは 10.51 秒となり、1.08 秒 早くなっています。

1位のタイムと、8、9秒台の人数は、すべて2月の記録です。

30年度においては、31年2月の最高タイムは8秒52であり、8秒台9秒台を記録した人数は31名だったということです。

5月から2月にかけて、タイムを最も短縮した園児は、17.24 秒→12.01 秒 となり、5.23 秒短縮したことになります。

#### ★次に 50m 走 の全国の平均タイムを掲げます

学年	男子の平均	女子の平均	学年の平均
小学1年生	11.41 秒	11.71 秒	11.56 秒
小学2年生	10.70 秒	10.94 秒	10.82 秒
小学3年生	10.04 秒	10.33 秒	10.19 秒
小学4年生	9.60 秒	9.91 秒	9.76 秒
小学5年生	9.29 秒	9.50 秒	9.40 秒
小学6年生	8.78 秒	9.12 秒	8.95 秒

#### ※表の見方

データは、平成27年度の文部科学省の 『体力・運動能力調査』 を用いています。

学年の平均の記録はありませんので、学年の平均は、男子と女子のタイムの平均を取りました。母集団が大きいので、誤差はないと考えられます。

## ★自己評価……安松幼稚園の記録と全国平均の比較による評価

※ 安松幼稚園 5歳児年長さん 95名の 30年度・31年2月の平均タイムは 10.51秒

全国の小学2年生の平均は 10.82秒 小学3年生の平均は 10.19秒

安松幼稚園の平均タイムは、小学2年生と3年生のちょうど真ん中になります。

全国平均の測定日はわかりませんので、単純比較ができないとしても、安松幼稚園5歳児の平均タイムは、小学2年生のタイムに匹敵するか それとも 少し上回ると 結論できます。

それ故、安松幼稚園の令和元年度（2019年度）5月 平成30年度（2018年度）の学校評価

テーマ 安松幼稚園の体育指導の 総論 並びに 基礎体力の育成 については

上記の客観的なデータに基づき検討した結果、先生全員がその成果を喜ぶと共に、当園のカリキュラムは園児の発達段階にあっていて、十分に成果を上げているとの自己評価に至りました。

## V. 改善 (A)

●運動の基本は 走る 能力にあると考え、今回の評価においては、当園と全国小学校の50m走のタイム比較をなしたところ、当園の園児の運動能力の高さに驚くところである。

これは、運動能力だけではなく、園児の物事に取り組む姿勢や積極性も非常に高く感じられ、最初に述べた『幼児の健全なる発達を考えると、心と身体は切り離されて存在するものではなく、適切な運動・体育指導は、子供の情緒・思いやり・積極性など、子供の心を豊かにするものであると確信する。』との意を強くする次第である。

●あとは、運動が好きであっても苦手であるという園児の気持ちをどのように高めるかという問題が大きく残る。

★安松幼稚園の年長児全員の50m走のタイムの推移の表の右の項に、5月から翌2月の10か月で早くなった最高タイムという欄があるが、これなど5月において記録の良くなかった園児が一番挑戦できる項目である。

5月に50m 17.24秒 かかった園児が 翌2月のタイムが 12.01秒 となり、園内でトップの 5.23秒 縮めたということで、先生と共に、本人、お母さん共に大喜びで会った。

このようにして、運動の苦手な子供にも、達成感や運動の喜びを経験させるような取り組み。アイデアを、これからも考え改善していきたい。

上記は、安松幼稚園の体育指導の 総論 並びに 基礎体力の育成 について、PDCAの各要素において自己評価するところであり、V. 改善 (A) に記したように、今後も一層、子供の生きる力となるように、カリキュラムを改善していきたいと考えるものである。

そしてこの自己評価を、若干の資料を添えて、学校関係者評価の会に提出する所存である。

# 平成 30 年度 学校評価（学校関係者評価）

## I. 最初に

今回、学校関係者委員会に提出された本 30 年度の学校評価（自己評価）は、**安松幼稚園の体育指導の 総論 並びに 基礎体力の育成** についてを テーマとされていました。

学校関係者委員会としての下記の評価に至りましたので、ここに学校関係者評価を提出致します。

## II. まずは、自己評価の検証

### (1) テーマ（P 目標設定）

子どもの健康を考えると、今回のテーマは非常に適切であると考えます。

学校評価も回を重ね、いつかは取り上げてほしいテーマだと考えておりました。

最初に述べられています『幼児の健全なる発達を考えると、**心と身体の発達は切り離されて存在するものではなく、適切な運動・体育指導は、子供の情緒・思いやり・積極性など、子供の心を豊かにするものであると確信する。**』の視点には、心から賛成いたします。

### (2) 具体的にどのような事をされているか（D 実行）

わが子が在園していました時から、非常に多様な運動を子供に経験させて頂いて、子供も体を動かすことや運動が好きになったことを思い出しました。

本日、多様なカリキュラムを提示される中でも、**サーキットトレーニングと体幹を鍛えるトレーニング**に私たちは注目致しました。

在園当時、そのようなサーキット運動を参観して、「わずか 4 歳、5 歳の子供が、ほとんど休むことなく、次々と多様な運動をこなしていく、しかもそのつなぎはダッシュで移動している。しかも意欲をもって楽しみながら！！」そういう姿に感動したことが蘇りました。

体幹トレーニングも同様で、**そのような教材を意図的に入れて下さっている**からこそ、次の評価に記しましたように、**50m 走において、小学校 2 年生の記録に匹敵（むしろ上回る）する記録が出るのだと理解できました。**

### (3) 実際の私達保護者の（C 評価）

実際に安松幼稚園の保護者は、小学校に入学したとき、安松の卒園生の運動能力の高さと積極性や優しさを強く感じています。

自己評価にありますように、あそこまでのデータを提示されたとき、心から嬉しく思いますと共に、十分に成果を上げているという自己評価を、全面的に肯定致します。

### (4) A 改善

私達に提示頂いた自己評価から、改善というよりは、今の教育のまま、ひるむことなく、是非続けていって欲しいと願う次第です。

## III. 最後に

色々と自己評価を検証してまいりましたが、自己評価と共に、私達が日常園で見聞きしていること、お母さんからの**お便り**を参考にしながら議論を進めてまいりました。

ここに学校関係者評価として、自己評価が適切であるとみとめます。